

追跡 11 年！ 海洋博公園のヤシガニ

一般財団法人 沖縄美ら島財団（沖縄県本部町）の研究グループは、海洋博公園に生息するヤシガニの生息実態調査を 2006 年から継続しており、2017 年 5 月 13 日に 11 年前に確認された個体を再び確認しました。甲殻類を 11 年間追跡できた例は、世界的にも無く、寿命の長いヤシガニの生態解明に役立つと期待されます。

当研究グループはこれまでの調査により、ヤシガニの甲殻の模様が脱皮を経ても変化しないことを確認しています。

そして、この甲殻模様の照合によって個体識別を行い、個体情報を蓄積することにより、成長や移動などの様々な生態を明らかにしてきました。

個体情報の蓄積は現在も継続しており、**2017 年 5 月 13 日に実施された「海洋博公園ナイトツアー」で確認された 1 匹のヤシガニが、調査を始めたばかりの 11 年前に記録された個体（シリアルナンバー #0602）であることが分かりました。**



■ポイント■

陸生最大の甲殻類「ヤシガニ」最大のものは 4kg に達します

1. 11 年前に確認された個体が、2017 年 5 月 13 日実施の「海洋博公園ナイトツアー」にて確認された。
2. 野生の甲殻類を 11 年間追跡した例は世界的にも無く、寿命の長いヤシガニの生態の解明に役立つと期待される。

*要旨は別添資料をご参照ください。

■代表研究者プロフィール■

岡 慎一郎（おか しんいちろう）：

博士（理学）。一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター 動物研究室 係長。

専門は水生生物の生活史研究。

<お問い合わせ> 一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報 IT 課 又吉・菅間

TEL 0980-48-3649 / FAX 0980-48-3122

※研究内容に関するご質問には、当財団の研究員がお答えします。

＜研究の背景＞

ヤシガニはインド太平洋の熱帯域から亜熱帯域に生息する陸上最大の甲殻類です。乱獲や生息地の消失などで世界的に資源が減少しており、絶滅が危惧されている地域もあります。海洋博公園の敷地内はヤシガニの生息に適した環境が守られているため、世界最北端の繁殖地となっています。当財団では、約 11 年にわたって公園内のヤシガニ個体群の生息実態の解明を目的とした野外調査を行っており、これまで本種の保全に役立つ多くの生態的知見を得ています。

＜研究概要＞

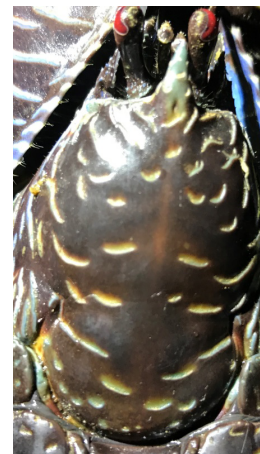
海洋博公園内での調査

一連の調査で、ヤシガニの甲殻の模様が脱皮を経ても変化しないことがわかりました。したがって、模様を撮影し放流した個体の模様の写真を照合し、同一と判断された例を集めることにより、成長や移動などの様々な生態を明らかにすることができました。

個体情報の蓄積は現在も継続しており、**2017 年 5 月 13 日に実施された「海洋博公園ナイトツアー」で確認された 1 匹のヤシガニが、調査を始めたばかりの 11 年前に記録された個体(シリアルナンバー#0602)であることが分かりました。**この個体は、初回の確認後、これまでに 3 回捕獲されていますが、公園内で初めて幼生を海に放つ行動を撮影できた個体でもあり、海洋博公園内で確実に繁殖している事実を証明した特別な個体でもあります。なお、この個体は約 11 年間で胸長がわずか 10mm (29.9mm から 39.9mm)しか成長しておらず、ヤシガニの成長が非常に遅いことも示しています。



2006.7.13 (胸長 29.9mm)



2017.5.13 (胸長 39.9mm)

表面の筋状の模様パターンが、11 年変化していない



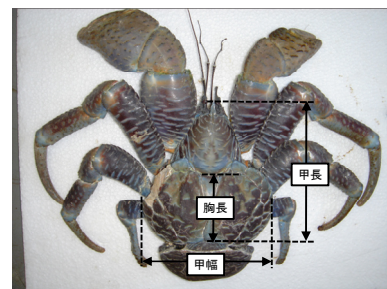
#0602 が海岸で幼生を海に放つ行動
(暗視カメラで撮影)

長期の追跡調査

野生の甲殻類を 11 年という長い間追跡した例は世界的に見ても無く、非常に貴重な発見例です。この個体を含め、現在 176 個体のヤシガニが識別できており、長期間の追跡例も増えています。長期間の追跡例は、約 50 年といった長い寿命を持つ本種の生態をより詳細に知るために有益な情報となります。

環境の重要性

このような成果は、資源減少が世界的に進んでいるヤシガニの生態解明につながるほか、資源管理や保全を考える上で重要な基礎データとなります。海洋博公園はヤシガニの生息に適した環境条件が整っていると考えられ、保全の観点からその環境を維持することが重要といえます。



ヤシガニの計測部位

(ヤシガニの研究では一般に胸長を使う)